

北青山Dクリニック

オンラインで医療相談

下肢静脈瘤日帰り手術のパイオニア

医療法人社団DAP北青山Dクリニック（東京都渋谷区）は1月4日より、下肢静脈瘤治療においてテレビ電話を利用した遠隔診療によるオンラインカウンセリングを開始した。従来の遠隔診療は初診の来院を必須とした慢性期治療が主だったが、初診のカウンセリングを遠隔診療で行うという極めて珍しい試みだ。詳細を阿保義久院長に聞いた。



医療法人社団DAP
北青山Dクリニック
阿保義久院長

この医療機関はなぜ成功したか

開院しました。都心の1等地で開院した理由としては、地域医療だけではなく全国規模の広域な医療も担うというコンセプトです。専門性を活かして医療の進化に寄与したいと考えました。

このような点を踏まえ、2000年に当院を

都市の1等地で全国患者に対応

阿保 外科医としてがんや血管の治療をしてきて、2000年に当院を

海外からの患者も多数来院

患者が非常に多い疾患です。高齢になればなるほど進行し、放っておけば自然に治癒するものではありません。特にニースが

生活レベルを著しく落とすようにいった要因は、阿保 インターネットの普及も追い風になりました。開院当時、集客のためにクリニックのホームページを立ち上げること

下肢静脈瘤とは

〔下肢静脈瘤の症状〕



下肢静脈瘤とは、脚や足の表面を走行する静脈が、ぼこぼこした瘤のように盛り上がった。クモの巣や網目状に青や赤の血管が浮き上がったりする疾患。基本的には自然に回復することはない、時間と共に徐々に悪化する

40歳以上の10%前後、妊娠出産経験者の50%に発症するなど報告されている。潜在的な人も含めると相当多数の患者人口になるよう

短パンになれない、スカートがはけない、など患者の悩みは往々にして深刻だが、医療機関側ではあまり重視して取り上げてこなかった疾患といえる。



手術風景

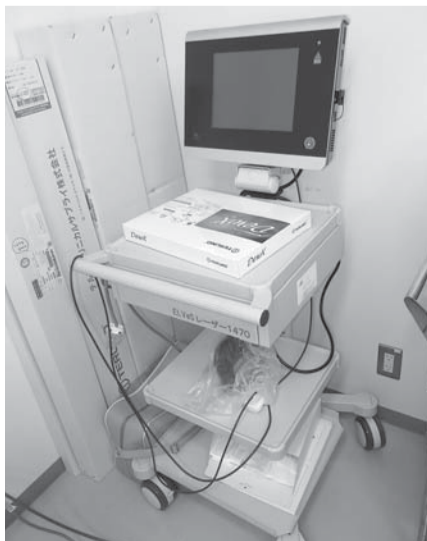
10年先を見据え遠隔診療に着手

手術件数月平均100件

阿保 インターネットの普及も追い風になりました。開院当時、集客のためにクリニックのホームページを立ち上げること

阿保 遠隔診療は現段階では、賛否両論があると思います。しかし、思い返してみれば開院当時

最新のレーザー機器 (右下も同様)



テレビ電話でカウンセリングをするイメージ



手術室は2部屋用意

最新レーザー手術 業界に先がけ導入

阿保 遠隔診療を導入した理由は、

阿保 遠隔診療は、治療経験・実績が豊富な医師であれば、極めて正確な診断のもと、適切な治療方針を立てやすい疾患です。

世界に誇るべき日本の医療技術

阿保 海外展開も可能なのは、

海外からの患者のメールや電話での医療相談は非常に時間がかかりました。また、海外患者は1度の来日で確実な治療を望みますので、事前の情報収集が大切です。遠隔診療を導入することでこのようになりつつあり、大幅に効率化が図れると考えています。

阿保 遠隔診療は、治療経験・実績が豊富な医師であれば、極めて正確な診断のもと、適切な治療方針を立てやすい疾患です。

海外からの患者のメールや電話での医療相談は非常に時間がかかりました。また、海外患者は1度の来日で確実な治療を望みますので、事前の情報収集が大切です。遠隔診療を導入することでこのようになりつつあり、大幅に効率化が図れると考えています。